

令和5年度第2回岩手県大規模事業評価専門委員会

(開催日時) 令和5年7月21日(金) 14:00～15:15

(開催場所) エスポワールいわて 1階 小会議室

1 開 会

2 議 事

(1) 大規模公共事業再評価地区の現況確認について

- ・猿ヶ石川広域河川改修事業(遠野市)
- ・千厩川(中流)広域河川改修事業(一関市)

(2) その他

3 閉 会

出席委員

加藤徹専門委員長、狩野徹副専門委員長、小井田伸雄委員、松木佐和子委員、
松山梨香子委員、八重樫健太郎委員、山本英和委員

欠席委員

竹内貴弘委員

1 開 会

○八重樫政策企画部政策企画課評価課長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第2回岩手県大規模事業評価専門委員会を開催いたします。

事務局の八重樫と申します。本日はよろしくお願いたします。

本日の委員会でございますが、ウェブ会議システムによる出席の皆様を含めまして委員総数8名中7名に御出席いただいております。半数に達しておりますので、政策等の評価に関する条例第13条第2項の規定によりまして、会議が成立しておりますことを御報告いたします。

2 挨拶

○八重樫政策企画部政策企画課評価課長 開会に当たりまして、加藤専門委員長から御挨拶をお願いいたします。

○加藤徹専門委員長 それでは、一言簡単に御挨拶申し上げます。

今日は暑い中、御参集いただきましてありがとうございます。仙台を出るときは22度ぐらいで余り気温は高くなかったのですが、盛岡に降りた途端に、うわっとなるくらい暑くなっていて、そういう中でお集まりいただきましてありがとうございます。

今日の第2回専門委員会では、当初は現地調査ということで現地に赴いていろいろ見させていただくという案でありましたけれども、前回の委員会の際に皆さんの御同意を得て、今回はこの会議室において写真あるいは追加してドローン撮影の状況を見させていただいて、それによって現地調査に代えるというふうな形になっております。

ただ、現地調査に赴くとした場合には、猿ヶ石川の方はほぼ事業完了に近いので、行くとなれば千厩川だけということでしたけれども、今日の説明では猿ヶ石川につきましても写真等によって、河川課の方から御説明いただいて、自分も事前にチェックさせていただきましたけれども、河川課さんの方には写真、さらにはドローンと御準備をきちんとやっていただいて、非常にありがたく思っております。敬意を表したいと思っております。

それで、今日はそういうことでそれらの説明を受けまして、委員の皆様には忌憚のない御質問、御意見いただければと思っております。ウェブで参加の松山委員、松木委員もドローン撮影は見えにくいかもしれませんが、よろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、今日はよろしくお願ひいたします。

○八重樫政策企画部政策企画課評価課長 ありがとうございます。

議事に入ります前に資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、資料番号1、2となっております。お手元の資料の御確認お願ひいたします。あと、お手元の青いファイルの方に基礎資料としまして、関連する条例など前回委員会の資料を準備しておりますので、必要に応じて御覧いただきたいと思っております。

本日の審議内容ですが、次第の議事にございますように大規模公共事業再評価の現況確認となっております。

それでは、議事の進行につきましては、条例第12条第2項の規定によりまして、加藤専門委員長にお願ひしたいと思っております。

それでは、よろしくお願ひいたします。

2 議 事

(1) 大規模公共事業再評価地区の現況確認について

・猿ヶ石川広域河川改修事業（遠野市）

○加藤徹専門委員長 それでは早速議事の(1)、大規模公共事業再評価地区の現況確認について入りたいと思っております。最初に、猿ヶ石川広域河川改修事業につきまして、河川課さんの方から御説明お願ひします。

〔資料No.1に基づき説明〕

○加藤徹専門委員長 ありがとうございます。

この猿ヶ石川の方は、今御説明いただきましたように現在の施工箇所等を除いてほぼ改修は終わっているということなのですが、ただいまの御説明につきまして何か御質問等ございませんでしょうか。

では、まず皆さんから御質問いただく前に、僕の方から。先ほどの最初の方の図面で市街化が増えていましたね。この市街化が進むときは、ここはもともとの土地は農地で、農地転用の形で市街化が広がったということによろしいでしょうか。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 そのとおりだと思います。

○加藤徹専門委員長 ありがとうございます。

何か御質問等ございませんでしょうか。

ウェブで御参加の松木委員、松山委員、特にございませんか。

松木委員、はい、どうぞ。

○松木佐和子委員 スライドの5ページになるのですけれども、一部未完了というのがありますけれども、どこら辺のところか未完了なのかというところ、もとの形と荒川と書いているところが真っすぐになっているところは分かるのですけれども、それ以外の部分でどこが未完了なのかなというのをちょっと聞きたかったのですけれども、もし分かればお願いします。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 こちらのほうがこれから工事の方を進めるということで、一部築堤等の整備を進めている施工区間の状況になります。最後のページのスライドの10ページをお願いしたいのですけれども、こちらのほうがこれから整備する箇所ということで、例えば⑧番ですと、まだこちらの河道掘削が一部完了していないということで、護岸上流の部分になるのですけれども、ちょっと川の中にまだ掘削が必要な箇所が残っておりますので、そういったところだったりとか、あるいは⑩番、⑪番におきましても築堤の方の整備は進んでいるのですけれども、川の中の掘削がこれから必要だというようなことになります。先ほどの区間の代表箇所の写真といたしましては、こういったところになります。

○松木佐和子委員 となりますと、河川の形は変わることはないけれども、掘削がこれから進むということでいいのでしょうか。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 はい、大体そのような形になります。

○松木佐和子委員 ありがとうございます。

○加藤徹専門委員長 ほかに御質問等ございませんでしょうか。

どうぞ、八重樫委員。

○八重樫健太郎委員 本質的ではないところで大変恐縮なのですが、事業進捗状況の着手前、着手後とかのビフォー、アフターの写真の着手前の撮影時期とかというのは、例えば平成元年だったり、平成の20年代というのもあったりしていて、結構昔との比較なのだなと思って見ていた中で、8ページの部分だけ令和2年10月との比較で、ここだけ新しかったので、何か特段の理由あったのかなと思って、すみません、単純に比較の時期がここだけ気になったもので、何か別な理由あったのかなんていう単純な疑問で申し訳ございません。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 基本的には手持ちの写真のところ、現在の

ところの写真と比較できるところの写真をピックアップしたので、撮影時期についてはちょっとばらつきがございますので、御了承いただければと思います。

○加藤徹専門委員長 特に意図はないようでございます。

○八重樫健太郎委員 ありがとうございます。

○加藤徹専門委員長 ほかにございませんでしょうか。
どうぞ、山本委員。

○山本英和委員 事業の進捗状況がうまくいっているということは、今回の説明で確認させていただきました。今前の資料を見直しているのですけれども、治水安全度がこれ50分の1で計画されているのですよね。それで、例えばつい数日前の秋田の水害のようにほとんど最近の水害は従来の降水量では観測されなかったようなもので起こっていると思いますので、特に遠野のどっちかという北側の地区で50分の1でやった場合というのは、当然史上最大の降水量が来た場合には防ぎ切れませんよね。その際に、よくソフト対策をするということで、都市部とかはやっているのですけれども、この地域ではどのような対策が取られているのかというのがもし分かれば教えていただければと思います。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 ソフト対策につきましては、1回目の委員会での調書の方をちょっと御覧いただきたいと思うのですが、例えば3ページのところに社会経済情勢等の変化ということで、ウ、施工地域における状況の欄がございます。こちらの方に中段以降にソフト対策について紹介してございました。5行目の途中からですね、ソフト対策といたしましては令和元年度に危機管理型水位計、それから令和4年度に危機管理簡易型監視カメラということを整備しております。ホームページで公開しているほか、あとは水位周知河川に指定いたしまして、水位情報の周知、ホットラインとかということで、一般に周知すること、あるいは市町村に周知することを進めてございます。

それから、平成30年の11月におきましては猿ヶ石川の想定最大規模の浸水想定区域図を公開するというので、住民の方に対しての危機管理の意識を持ってもらえるように取組を進めているというようところでございます。

○山本英和委員 もうちょっと具体的なことなのですが、今回の水害のときも私は川の防災情報とかちらちら見ていたのですけれども、どの程度どの地区が直接観測とか、何か所ぐらい簡易観測とかしているのかとか、あとは例えば盛岡で出たばかりの南の方で内水氾濫のようなマップが遠野とかではつくっているのか、さすがに遠野ぐらいではつくらないのか、その辺の新しいことが分かったら教えていただきたいかったです。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 ちょっと今観測所の数については確認進めてございます。

内水の方につきましては、盛岡市さんの方で最近公表されたということで、あとはこの

間ありました秋田県の水害についても内水の部分が大きいというようなことがあったかと思えます。遠野の方の内水につきましては、県の管轄からちょっと離れてしまうのですけれども、そちらの情報も私たちも把握し切れませんでしたので、確認しておきたいなと思っております。

それから、あと水位計と監視カメラの状況でございますけれども、簡易型のカメラといたしましては、今回の事業区間におきましては1基ございまして、水位計につきましては猿ヶ石川は1基ですかね、今回の事業区間におきましてはそれぞれ1つずつということで、こちらの方の水位計と監視カメラの方でこの区間についての水位というものを情報把握されまして、避難等の活動に役立てていただくというようなことを進めてございます。

○山本英和委員 分かりました。どうもありがとうございます。

○加藤徹専門委員長 今山本委員の方から御指摘されたのは、本川以外の支川の整備の治水安全度ですね、50分の1ならまだ支川クラスでは大きい方なのですよ、小さいところは10分の1ぐらいなものですから。ですから、最近の記録的な豪雨がありますとほとんどの河川は正直言って耐えられないような状況になっているのです。

それで、国はこれまでの河川中心の総合治水から、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も一つの流域として捉え、国、地方自治体、住民及び利水者など、あらゆる関係者が協働して対策を実践する流域治水という形に大きくかじを切ったわけです。ところが、その流域治水の具体的な対応、対策等については、これからになると思います。

このような状況下において、先日7月18日付で、宮城県内の吉田川・高城川が特定都市河川として東北地方で初めて指定されました。この河川で、流域治水としてのハード的な整備、ソフト的対応等が総合的になされると思いますので、他の河川流域の今後の対策にも、大いに参考になるものと推測されます。

自分は農業土木が専門なのですが、個人的には河川のことをずっと関わってきていまして、問題なのはとにかく山本委員指摘されたように本川の例えば北上川とか、宮城県の鳴瀬川とか、本川はかなりの高い確率で整備進められているのですけれども、支川クラスは10分の1から50分の1ぐらいの治水安全度ですから、これがなかなか今後どのようにしたらいいのか。ただ、河川の河道整備、それから川幅を若干広げるといっても市街地がどんどん張りついてきていますので、それも難しい。それでは、輪中堤を造って囲うかという、それも財政的な問題でなかなかですね。ですから、ハード的には今後その辺をどういう形で対応していくかというのが、これは岩手県だけではなくて全国の河川全て共通した問題であります。

これは今後どういうふうにもうまくやっていけるかというのが河川行政上の大変な課題で、もちろん今まで技術的には国土交通省を中心に、それから県は土木部中心に、そういう形だけではなくて、流域治水としてソフト的な対応も含め総合的な対応をするには行政的にも縦割りを全部外した形で取り組んでいくことが肝要と思われれます。

余談ですが、少し加えさせていただきます。

ほかに御質問ありませんでしょうか。

はい。

○山本英和委員 私がカメラの数とかを聞いたのは、恐らくここはきっとある程度進捗状況が高く、もうほぼ完成する場所だと思うのですけれども、県内まだできていないところが山のようにありますよね。それができるまでにはどうしても10年、20年後だってかかるので、ですから取りあえず簡易カメラのようなものだけの設置でしたら、少なくとも河道掘削とか堤防設置よりははるかにお金がかからないはずなので、せめて命を守る対策だけでも先に少額のお金でできればいいのではないのかなと思うのですけれども、ただこの場で言う議論ではないのですよね、きっと、大規模事業だから。すみませんでした。

○加藤徹専門委員長 ありがとうございます。

はい。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 県の方の取組といたしまして、やはりこういった簡易型の水位計とか、簡易型のカメラとかということの整備もこれまでに進めてきたところがございます、あとは小さい川におきましても従来浸水想定とか実施できていなかったところにつきましても順次整備の方を進めていきまして、公表していくことになってございます。ハードと併せてそういったソフトについても着実に進めていきたいということで進めてございましたので、御紹介いたします。

○加藤徹専門委員長 行政的にも大きい一級河川の幹川部分は国が、一級河川ですと本当は国が全てやらなければいけないのですが、支川クラスになると県管理にされて、さらには市町村、それでハザードマップなるものは市町村がつくって公表することになっているのですよね。ですから、この辺の関係ももっと連携したような形で、自分の場合は個人的には河川関係の整備委員会、再評価とかできた頃からずっと関わらせていただいています、昔はハザードマップというと国が管理する河川が越流したり、堤防決壊したりしたときのハザードマップしかつくってなかった。それでは、内水で浸水、下水道だって治水安全度的に見ますと10分の1から20分の1ですから、ほとんどそれを超える雨はみんな内水であふれる状況になるわけです。それと外水というか、大きい河川から越流したのを併せてハザードマップつくるべきではないかと。10年以上ぐらい前から主張させていただいてきましたが、当時は、それは国でもそんなことはできませんという回答でしたが、最近はそのやってくれるようになっていまして、そこまでは少し進んでいるのですが、山本委員御指摘のようにまだまだソフト的な面を含めてこれからの問題かなと思っていますので、その辺を。

ただ、住民の方々にこれをどのように御理解いただくように説明できるかなのですけれども、今回の、パブリックコメント、住民からの意見でどういうのが出ているか分かりませんが、どこでも命を守る、そのためには、うちの近くにある河川は決壊しないほしい、あふれないほしいと、そういう希望は住民全員にあると思うので、それに行政がどこまで応えられるかというのが今後の課題かなと思っています。

それでは、もしほかに御意見なければ猿ヶ石川の分についてはこれでよろしいでしょうか。

「はい」の声

○加藤徹専門委員長 では、そのように。特にあとは猿ヶ石川地区につきましては、課題はないということで。

・千厩川（中流）広域河川改修事業（一関市）

○加藤徹専門委員長 それでは、続きまして千厩川の方の御説明を河川課長の方にお願ひします。

〔資料No.2及びドローン映像に基づき説明〕

○加藤徹専門委員長 ありがとうございます。

それでは、ただいまの御説明につきまして御質問、御意見ございませんでしょうか。
小井田先生、どうぞ。

○小井田伸雄委員 私は、工事の技術的なことについては全然分からないので、基本的な確認ということになるかもしれませんが、まず2ページと申しますか、資料の2枚目のスライドのところなのですが、この図を見ますと緑と赤で書いてあるところがありまして、先ほどドローンの映像でも見せていただいたのですが、上流の方は完全に緑ということなのですが、先ほど多分木で隠れていたあたりだと思うのですが、赤と緑が並行して書いているように見える部分があると思うのですが、これは例えば左側は今年度実施するけれども、反対側の岸に関してはこれからと、そういう読み方でいいのかどうかというのがまず1点です。

あと、それからこのページの河川の改修断面と書いているのが、代表的な場所ということかもしれませんが、具体的にもしかするとちょっと説明を聞き逃したかもしれないのですが、どのあたりということなのかというのを教えていただきたいというのが2点目。

それから、先ほど岩盤の破碎についていろいろ教えていただいたのですが、ビッター工法というのを使って、かなり手間がかかるものだと思うのですが、そのような工法を採用した理由として、近隣に住宅があるということで、騒音、振動が少ない工法を採用されているということだったのですが、これは恐らくいろいろ考えて最善の工法を選ばれているということだと思うのですが、例えばほかのもっと早く工事ができて、騒音が出るけれども、例えば防音カーテンみたいなものを周囲に張るとか、そういった形で対応することが可能なかどうか、あるいはそれをするとしても例えば費用がかえってかかるのか、そういう事情なのかどうかということもちょっと教えていただければと思います。

以上、3点よろしくお願ひいたします。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 それでは、まず図面の方でございますけれども、お話しいただいたように赤の部分が工事实施中ということで、緑のところはこれから実施するというところになります。見方といたしまして、四日町橋より上流のところにな

りますけれども、下流に向かって右側が赤のところということで、先ほど御覧いただいた工事を実施している状況の範囲になりまして、反対側の左岸側についてはこれから整備を行う必要がある箇所というところになります。

河川の改修の断面図としまして添付してございますけれども、具体的な場所としては、代表断面といたしまして、久伝橋ということで整備済みの箇所ですね、そちらの方の代表断面ということで添付してございました。

それから、あとはビッグー工法ということで採用してございますけれども、もっと早くできる工法ということになりますのでけれども、まずは先ほど申し上げましたように市街地が近いということで振動、騒音ということに配慮する必要があるというところで、今回この工法を選んだということになります。

そのほかの工法ですと、やっぱり今回の岩に対応できるようなものになりますと、なかなか工法として限られてくるというようなところになりますので、今回このような工法を取ったところでは。

あとは、騒音につきましても例えば防音シートで囲ったというような騒音対策を行っても、やはり結構な音は出るので、工法として静かにできるものを選ぶのが近隣住民への配慮として適切な最善の工法かなと考えてございます。

○小井田伸雄委員 ありがとうございます。

○加藤徹専門委員長 ほかにございませんでしょうか。

どうぞ、狩野先生。

○狩野徹副専門委員長 今の工法のところと関係すると思うのですがけれども、振動も少なく、音も少ない工法ですが、住民の方からそれでも気になるとか、意見になったことは特にはなかったでしょうか。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 おかげさまで近隣住民の方からの声は特にないということで、工事の方に御協力いただけているという状況です。

○狩野徹副専門委員長 もう一つ、前回の説明のときには残土をいろいろなところで利用するという計画を伺っていたのですがけれども、多くの石が出てくるのは、知らなかった。何か利用の仕方があるのでしょうか。めどが立っているのか、もう決まっているのか、わかっていることがあれば教えてください。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 今現場の方で公共工事との調整ということで、市道の道路改良が近くでございまして、同じ管内でございまして、そちらの方にこの岩を、もっと本当は細かくしなければならぬのですがけれども、その細かくする方は市道の方の管理者の方で作業していただくということで、今この状態のままそちらの方に利用するというところで進めてございます。ですので、今の段階では市道工事の中で建設発生材ということで再利用を行っている状況です。

○狩野徹副専門委員長 ありがとうございます。

○加藤徹専門委員長 よろしいでしょうか。ほかにご覧いませんか。
はい、どうぞ。

○山本英和委員 地震工学をやっている立場からだとこんなに硬い地盤というか、岩盤があって、その上にまちがあれば地震時には非常に安全なまちというか、恐らく通常の市に比べれば非常に震度が小さく地震応答しなしくて羨ましいところだと思うのですがけれども、あとこれ工事が始まってから硬岩が見つかって、このような対策を取られるという立場でやっているところですが、最初から例えば川底あたりで岩とかが分かっているということが実は事前に本当はある程度予想できたのではないのかなと思うのですが、そういうのは地盤の調査とか検討なされなかったのですか。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 現況の状況から露岩している部分が一部では確認できたのですが、そのように堆積しているものが多かったので、状況についてはどこまであるかというのは想定が難しかったかなど、具体的に土の中まで調べるような調査を行っているわけではないので、現地踏査等の情報の中だと一部岩が出ているのは確認しているのですが、どの範囲までというところは確認できていなかったで、想定よりも多い、高い位置で出てきたということかなと考えています。

○山本英和委員 何となく私の経験とか知識からだけだと、千厩の北上山地という日本でも有数の古い硬い山地の中のまちの中であって、かつこの写真だけ見ても山があって、丘陵地というときに、それがすっと落ちて平野部になっているということは、川付近が堆積していて、山は恐らく硬い岩がそのまま残っているというのが見ただけでも分かりそうな気がするのですが、計画の段階ではこういうのはあまり触らない、検討しないのか、もしそうだとするとほかの場所でも相当同じことが当たり前のように起こるのではないのかと思うのですが、そのたびにこういう対応を取らざるを得ないのか、その点についてお聞かせください、ちょっと難しいかもしれませんが。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 ほかの河川もやはり岩盤が出てくるということはよくあることであるのですが、ここまで硬い岩というのは、私もあまり経験はないといいますか、大体大型ブレイカというもので掘削するところなのですが、それでも今回のこの岩については歯が立たないといいますか、対応できないというようなことになりました。今回表面の方はちょっと風化が進んでいるような状況も見えるので、ここまでというようなところはちょっと想定難しかったかなというような印象はございます。

○加藤徹専門委員長 岩手県内で河川改修やっているところでこういう場所というのは、多分ほとんどないと思うのです。我々は宮城県の河川を中心に見させてもらっても、こう

いうケースというのは見たことないのです、ほとんど。ですから、調査前に、計画段階でそこまできちんとやればいいのですが、これ公共事業をやる場合の問題の一つなのかもしれませんが、こういう河川改修もそうですし、道路に附随するトンネル工事とかでも十分な詳細な調査とか事前にやらないのですよね。それだけ金つかないのですよ、調査費が多分。それで計画して、あとは実際に施工するときに詳しく調べていくみたいな形でやっているものですから、こういう問題たまたま出てくるのです。トンネルだと逆に強いと思っていた岩質がやわらか過ぎて対策講じないとこれ以上やれないみたいな、そういう問題も含めて施工する前の計画段階の問題というか、それは山本委員御指摘のとおりなのですが、ただ将来的には少しその辺も直せばいいなとは思いますが。

ほかにございませんでしょうか。先ほど狩野委員から出ましたようにこの砂利硬くて、逆にうまく活用できないか、もったいないですから、例えば細かくしたコンクリートの粗骨材とか何かにでもきちんと利用してもらえば、やっぱりそういう方がいいのかなという感じがします。

ウェブで御参加いただいている松山委員、松木委員、何か御質問等ございませんでしょうか。

○松木佐和子委員 ちょっと横道にそれてしまうかもしれないのですがけれども、野生動物が熊だったり鹿だったりを利用して、増水したりすると岸の方に動いてくるというような話が北上川とかでもあるのですけれども、こういうところで掘削する作業をゆっくり、ゆっくり進めていくと、あるところまでは河畔がないけれども、あるところからは河畔ができるというような形になると、動物の動きとかが変わったりして野生動物がまちの中に出やすくなるとか、そういうことというのはあったりするのかとちょっと思ったのですけれども、そんなような変化みたいなのは感じるどころあるかとかという、そういう情報というのはありますでしょうか。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 今回こちらの方は市街地の中になりますので、そういった動物の生活圏といいますか、そういったところは特に情報としてはなかったのですけれども。

○松木佐和子委員 盛岡ですと本当にまちなかにも河畔に動物が生息しているというのを確認しているので、恐らくこの遠野でも利用はあるのではないかなと思うのですけれども、カメラとかで確認とかというのは、そういう野生動物に限った調査はしていないのかもしれないのですけれども、特にこの工事がそういう影響をするということは、特に情報はないということですか、今のところ。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 はい、今のところはそういった情報はございませんです。

○松木佐和子委員 ありがとうございます。

○加藤徹専門委員長 松山委員は何かございませんでしょうか。

○松山梨香子委員 少しだけ聞き取りにくいところがあったので、もし御説明済みだったら恐縮なのですが、先ほどの説明で岩の方は花崗岩とお伺いしたのですけれども、強いと思うのですけれども、もしかして間違った見解だったら申し訳ないのですが、亀裂したところから風化していてもろくなっていくイメージがあるのですけれども、写真の16みたいに削ってしまった後は、擁壁という言い方で合っているのか分からないのですけれども、覆うような工事というのは全面されるということによろしいのですか。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 今回の工事におきましては、掘削したところにつきましては全面に護岸の方を配置いたしますので、こういったところの表面が直接空気に触れるということはなく守られるかなというようなこととなります。

○松山梨香子委員 分かりました。ありがとうございます。

○加藤徹専門委員長 よろしいでしょうか。

ほかに御意見、御質問ございませんでしょうか。

よろしいですか、大体。来月の第3回目の委員会までにできればこういうものを準備してもらえるとありがたいみたいな何かありましたら。特によろしいですか。

「なし」の声

○加藤徹専門委員長 それでは、この千厩川につきましてもただいま御説明いただきました写真あるいは動画等で確認させていただいたことにさせていただいてよろしいでしょうか。

「はい」の声

○加藤徹専門委員長 ありがとうございます。

それでは、この2地区とも次回の委員会までには特に課題は準備いただくものはないという形で、来月の第3回目委員会ときにはパブリックコメントに対する県の対応案とか、それら含めてせつかくですので、これだけ大きい宿題は残っていませんので、それら含めて、1つこれとか県の事後報告ありますけれども、それは報告ですので、それら含めて第3回目委員会ときには当委員会からの県の諮問に対する答申案、その策定まで進められればいかなと思っておりますので、ただそのようにうまくいくかどうか分かりませんが、そのようなつもりで予定させていただければありがたいかなと思っております。

小井田委員。

○小井田伸雄委員 1点だけよろしいでしょうか。多分あまり大勢には影響ないかと思うのですが、先ほど写真見せていただいた中で、④と⑤について御説明、スライド5枚目と

ということですが、そのちょうど間のところですね、④と⑤の間というのはちょうど曲がりくねっていて、さっきのドローンだとちょうど木にかかっていたところだと思うのですが、その間の状況というのが④や⑤とほとんど同じと考えていいのか、ちょっと違うのかというのが今までの資料だと完全には確認ができなかったもので、そこだけこの場でお分かりであれば御確認いただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○菊地県土整備部河川課河川海岸担当課長 ④と⑤の間がちょうど施工中のところになりますので、大体になって申し訳ないのですが、現在の岩盤の掘削状況で御紹介している区間がそちらの部分になりますので、このような形で今工事の方が進んでいるというところで御理解いただければありがたいです。

○小井田伸雄委員 分かりました。ありがとうございました。

○加藤徹専門委員長 よろしいでしょうか。

(2) その他

○加藤徹専門委員長 それでは、第1の議題はこれで終わらせていただいて、2番目の議題はその他となっておりますが、事務局の方で何かありますでしょうか。

○八重樫政策企画部政策企画課評価課長 ございません。

○加藤徹専門委員長 委員の先生方からは何か御意見ございませんか、よろしいですか。

「なし」の声

○加藤徹専門委員長 それでは、今日の議事の分はこれで終わらせていただきたいと思いますので、マイクの方を事務局にお渡ししますので、よろしく願いいたします。

○八重樫政策企画部政策企画課評価課長 ありがとうございました。次回の委員会でございます。8月28日月曜日の予定をしております。詳細の日程につきましては、また改めて御連絡いたします。

4 閉 会

○八重樫政策企画部政策企画課評価課長 それでは、以上をもちまして本日の専門委員会を終了いたします。本日はお忙しい中、御対応いただきまして誠にありがとうございました。